

地 域 連 携

はびきの Medical Net

FUTURE 腎臓内科「腎臓病 最新治療」

- ・ PICK UP 医療安全管理室
- ・ セミナーのご案内 「はびきのDチャンネル episode21」他
- ・ 学会報告さるーと 第73回日本アレルギー学会学術大会 他
- ・ はびきのパーソン 副院長 事務局
- ・ 地域連携NEWS 入退院支援センター「患者さんの想いを繋いでいく入退院支援をめざして」
- ・ 連携医療機関のご紹介 医療法人 白岩内科医院さま タケダ歯科さま



December

12

Vol.12



腎臓病 最新治療

腎臓病の原因には、糖尿病、高血圧に伴う腎硬化症、慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、尿管間質疾患、遺伝性腎疾患、薬剤による腎障害、悪性腫瘍・膠原病・感染症に関連し二次的に発生した腎障害など様々あります。

ゆるやかに進行する疾患もありますが、一方で短期間のうちに末期腎不全に至り透析が必要となる、急速進行性糸球体腎炎などの活動性の高い疾患もあります。疾患の種類によって適切な治療も異なりますので、何が原因なのかを、採血・検尿・エコーなどの低侵襲の検査を用いて可能な限り臨床診断を行います。想定される疾患によっては、腎生検による病理組織診断・確定診断を積極的に行っております。

当センターでは患者さんにとって最適な検査・治療を行うことを心がけています。

今までの腎臓病の治療というと、腎炎やネフローゼであればステロイドを中心とした治療といくつかの免疫抑制薬、慢性腎臓病（CKD）であればCKD進行抑制のためのレニン・アンジオテンシン系(RAS)阻害薬が治療の主流でした。

腎炎においてはステロイド長期使用に伴う重い副作用の問題が長らくの課題でした。またCKDにおいてはRAS阻害薬での腎保護作用が限定的であり、アンメットニーズがありました。

腎臓病領域では長らく新規薬の誕生がなかったのですが、近年になって創薬が進んでいます。腎炎・ネフローゼで、最近保険適応となった新規薬としては、小児期発症の頻回再発型ネフローゼ症候群に対するリツキシマブ(抗CD20モノクローナル抗体)や、顕微鏡的多発血管炎や好酸球性多発肉芽腫症に対するリツキシマブ、タブネオス(選択的C5a受容体拮抗薬)などが挙げられます。これらにより、ステロイドの使用量を大幅に減らし、副作用を減らすことも可能になってきています。

腎臓内科 主任部長
飯尾 麗 (いいお れい)

【経歴】

平成18年大阪大学卒。大阪大学医学部附属病院、JCHO大阪病院、NTT西日本大阪病院、大阪急性期・総合医療センター等の勤務を経て、令和5年より現職。

【所属学会・資格など】

日本内科学会（認定医・総合内科専門医・指導医）／日本腎臓学会（専門医・指導医）／日本透析医学会（専門医・指導医）／腎代替療法専門指導士
大阪府難病指定医／医学博士／身体障害者福祉法第15条指定医師

腎臓内科 主任部長

飯尾 麗

Mio Rei

FUTURE

今後の医療を見据えて

また現在治験段階ではありますが、IgA腎症に対するシベプレニリマブ（抗APRIL薬）などの新薬も、今後市場に出てくると考えられ、今までよりも最適化された治療が期待されています。CKDであれば、SGLT2阻害薬やフィネレノン（非ステロイド型選択的ミネラルコルチコイド受容体拮抗薬）、サクビトリルバルサルタン（ARNI）などの有効な進行抑制薬も市場に出てきております。これらの治療を行うにあたって、当センターではまず確定診断をしっかり行い、患者さん毎に最適化された治療を行うことを心がけております。

一方で残念ながらCKDが進行し、保存的治療の限界と判断された場合は、腎代替療法への移行を考慮します。血液透析、腹膜透析、腎移植の3つの治療方法について十分な説明を行い、可能な限り時間をかけて選択していただきます。

一般的に世間でよく知られている治療方法は血液透析ですが、血液透析では週3回、1回あたり4時間と、治療に時間がかかり、患者さんは貴重な時間を割かなくてはいけません。

一方で腹膜透析は、お腹（腹腔）にカテーテルというチューブを入れておき、1日に数回の透析液交換を自分で行うという治療方法です。腹膜透析液の交換にある程度（1回あたり数十分程度）の時間はかかりますが、比較的自由度は高く、問題がなければ通院は1か月に1回で、患者さんのQOLは保たれます。血液透析ほどのパワーがなく、自己管理が必要ですが、血液透析の開始を先延ばしにすることが可能です。

当科では、腎臓病の早期から進行した病態までを対応しています。南河内地区の腎疾患診療に貢献したいと考えておりますので、今後とも何卒よろしくごお願い申し上げます。

PICK UP 医療安全管理室

年々、高度化・専門化する医療の現場は、より複雑なものとなり、医療事故に繋がりにくい要因は増加傾向にあります。そのような中でも、当センターでは理念でもある「最新の医療水準で、最適な医療サービスの提供」を目指して、全職員が一丸となり、安心安全な医療の提供に日々努力を重ねており、その中心となって活動しているのが、医療安全管理室です。

医療安全管理室では、組織横断的にセンター内各部署・各職種と連携して医療に係る安全性の向上に取り組んでいます。

また、医療安全管理委員会や医療安全推進委員会といった、多職種でセンター内の医療安全について検討する委員会も設置しており、より安全性の高い医療の提供に尽力しています。



↑写真左より呼吸器外科 副部長 北原医師、
副看護部長 泉看護師、副院長 片岡医師

医療安全管理委員会・医療安全推進委員会

医務局・看護部・薬局・医療技術部・事務局等と多職種でセンター内のインシデント報告や対策について検討しています。



医療安全カンファレンス

週1回開催し、多職種で話し合い、インシデント報告からの現状把握や事例の分析、対策の検討を実施しています。

一般的に、年間で病床数の5倍のインシデント報告がある組織は、「透明性が高い」とされています。

当センターでは、全職種から年間で、全体の病床数（405床）の約5倍に相当する2,000件以上のインシデント報告がありました。

院内広報物

医療安全からのお知らせ



実際にあったインシデント報告の中から重大な事例を一部抜粋して、対応策と併せて掲載し、職員に周知しています。

現場の良い取り組みを取り上げるなど、職員の士気の向上にも貢献しています。

いんしでんとあれこれ

医療安全からのお知らせ以外にも「こんなことがありました」という情報をお届けしています。

院内での取り組み

① 医療安全推進週間

「いい医療に向かってGO!」に合わせて、毎年11月25日を含む1週間を医療安全推進週間とし、各部署でポスターを作製して掲示するなど、センター全体で取り組んでいます。

患者さんにも医療安全チームの一員として、フルネームで名乗っていただくをお願いするなど、患者参画の医療を推進しています。



② 転倒転落対策ラウンド

毎年10月10日は、「てんてん転倒・転落防止対策の日」とし、センター内で転倒や転落の恐れのある場所がないか、ラウンド!

昨年、新病院へ移転したこともあり、新たに対策が必要な箇所がないか丁寧にチェックしています。



職員への研修

① KYTトレーニング

危険予知トレーニングは「K(きけん) Y(よち) T(トレーニング)」と呼ばれていて、日常の中に潜む危険を察知・予測して、事故が起こらないように、予め対策するというトレーニングです。

② 日本専門医機構認定共通講習会

令和6年10月31日には、大阪大学医学部附属病院の中島先生をお招きし、「Safety-II 境界を越えて協働する」をテーマに、ご講演をいただきました。



事故を未然に防ぐシステム

画像診断報告書や病理診断報告書の見落とし事例を防ぐために、様々な対策を講じています。

① プレアボイド報告

薬剤師は、医師のオーダーを監査し、例えば、腎機能低下の患者さんの薬剤量の提案や、禁忌薬、併用禁忌の薬剤などを医師に疑義紹介しています。毎月40件を超える疑義紹介を行い、安全な薬剤の投与を行っています。

*プレアボイドとは、prevent and avoid the adverse drug reaction (薬による有害事象を防止・回避する)という言葉に基づいた造語です。

② 報告書の既読システム

- ・電子カルテを起動し、未読があった場合には通知が届く
- ・「既読登録」ボタンを押下し、患者さんに説明を実施したことを記入すると、未読通知が消える

③ 細やかな管理

- ・放射線科医師は遅延なく、速やかに報告書を仕上げる
- ・注意喚起(重要)報告書はオーダー医師に直接電話連絡を行う
- ・毎週水曜日に、2週間前までの未読報告書のリスト作成
- ・各オーダー医師と主任部長あてに未読リストを通知
- ・注意喚起(重要)報告書は、適切な対応実施をカルテ確認
- ・毎月、報告書管理の評価に係るカンファレンスの実施



大阪はびきの医療センター主催・共催

ぜひご参加ください！



12月以降のセミナー情報

はびきのDチャンネル episode21

【日 時】 令和6年12月26日（木）14：00～15：00
 【会 場】 Web開催（ZOOM）
 【対象者】 医療関係者
 【参加費】 無料
 【申込方法】 下記QRコードより事前登録ページへアクセスしていただき、申込フォームに必要事項をご入力ください
 【主 催】 大阪はびきの医療センター

〈プログラム〉

ご紹介いただいた症例の情報共有と地域医療の啓発活動として、Webによる症例報告会を2か月に1回実施しています。この活動を通じて、皮膚疾患に遭遇することの多いプライマリケアの先生方にもご協力いただき、地域の皮膚科診療を支えていきたいと考えています。

大阪はびきの医療センター皮膚科地域連携カンファランス「プライマリケアにおける皮膚科診療のTips」と題し、当センター皮膚科医師がそれぞれ症例の報告を行います。
 (ナビゲータ：大阪はびきの医療センター 副院長兼皮膚科主任部長 片岡 葉子)



第64回羽曳野臨床懇話会

【日 時】 令和7年2月27日（木）14：00～15：50
 【会 場】 大阪はびきの医療センター 3階講堂
 【対象者】 医療関係者
 【参加費】 無料
 【申込方法】 調整中（時期が近づき次第告知予定）
 【共同開催】 羽曳野市医師会、羽曳野市薬剤師会
 大阪はびきの医療センター
 ※大阪府医師会生涯研修1.0単位取得予定（申請中）

〈プログラム〉

- ・講演会
「関節障害の疾患と治療—最近の動向」
講師：大阪はびきの医療センター 整形外科 主任部長 西井 孝
- ・診療科紹介
「歯科口腔外科」
演者：大阪はびきの医療センター 歯科口腔外科 主任部長 助臺 美帆
- ・閉会の辞 羽曳野市医師会 会長 加藤 治人 先生

第22回大阪はびきの医療センター産婦人科勉強会& 第18回はびきやま産婦人科セミナー

【日 時】 令和7年2月12日(水)
 【会 場】 調整中
 【対象者】 医師・看護師
 【参加費】 無料
 【申込方法】 調整中（時期が近づき次第告知予定）
 【主 催】 大阪はびきの医療センター

〈プログラム ※調整中〉

昨年度は、診療実績報告と一般演題、特別演題を行い、大変多くの方にご参加いただき、大盛況となりました。今年度も多くの方にご参加いただけるような内容を予定しております。詳細につきましては、開催時期に近づき次第告知させていただきます。

羽曳野からだ塾（府民公開講座）

【日 時】 令和7年3月29日（土）14：00～16：00
 【会 場】 大阪はびきの医療センター 3階講堂
 【対象者】 府民（どなたでも参加していただけます）
 【参加費】 無料
 【申込方法】 下記QRコードより事前登録ページへアクセスしていただき、申込フォームに必要事項をご入力ください

【主 催】 大阪はびきの医療センター

〈プログラム〉

- ①聞こえが悪いと認知症になる？
演者：大阪はびきの医療センター 耳鼻咽喉・頭頸部外科 診療主任 小幡 翔
- ②難聴の種類と検査法について
演者：大阪はびきの医療センター 副院長兼耳鼻咽喉・頭頸部外科 主任部長 川島 佳代子
- ③補聴器の選び方と使い方
大阪はびきの医療センター 耳鼻咽喉・頭頸部外科 副部長 花田 有紀子



学会報告さるーと

当センターでは、研究、学会発表、論文報告を積極的に行っており、今後とも最新の知見を発信し続けます

👁️ 今回の見どころ！

第73回日本アレルギー学会学術大会で多くのスタッフが発表を行いました！



令和6年10月18日(金)～10月20日(日)、国立京都国際会館にて開催された同大会において、当センターの医師や看護師がそれぞれの知見を基に発表を行いました。

【シンポジウム】

- ・「アトピー性皮膚炎におけるバイオマーカー：実臨床にどう生かすか」
発表者：副院長兼皮膚科 主任部長 片岡 葉子
- ・「アレルギー性鼻炎重症化予防の意義とその取り組み
～花粉症重症化ゼロ作戦～」
発表者：副院長兼耳鼻咽喉・頭頸部外科 主任部長 川島 佳代子

【医師支援セミナー】

- ・「小児科：多職種連携による患者支援～小児科の立場から～」
発表者：アトピー・アレルギーセンター長兼小児科主任部長 亀田 誠
- ・「小児科：小児アレルギーエデュケーターの活動と多職種連携」
発表者：看護部 副看護部長 関田 恵

【ミニシンポジウム】

- ・「JAK阻害薬長期内服中のアトピー性皮膚炎患者にみられる
血液バイオマーカーと臨床効果の変動」
代表発表者：皮膚科 医員 木村 優香

【ポスター発表】

- ・「2018年にスギ舌下免疫療法を開始した小児患者の経年的検討」
代表発表者：耳鼻咽喉・頭頸部外科 副部長 花田 有紀子
- ・「バイオナティブな重症喘息に対するテゼベルマブの臨床的検討」
代表発表者：アレルギー・リウマチ内科 主任部長 松野 治

※企業と共催のセミナーは除いています。また、当センター職員が代表発表者となっている演題のみを抜粋しています。

当センターの アトピー・アレルギーセンターの概要

当センターでは、小児から成人まで、症状が多様で治療が困難な気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、薬剤アレルギー等のアレルギー性疾患に対し、アレルギー・リウマチ内科、皮膚科、小児科、眼科、耳鼻咽喉・頭頸部外科等の複数診療科が連携して専門的治療を行っています。

平成30年大阪府から「アレルギー疾患医療拠点病院」の指定を受け、難治性アレルギー疾患の診療をさらに充実させるとともに、アレルギー疾患に関する診療連携体制の構築や人材育成等、地域の医療機関や学校関係者、患者会等とも連携しながら、り良いアレルギー疾患治療の提供体制を確立するとともに、アレルギー疾患に関する情報の発信をさらに行って参ります。

第63回日本鼻科学会総会にて若手優秀発表賞を受賞！



令和6年9月26日(木)～28日(土)、同総会において、当センター耳鼻咽喉・頭頸部外科の小幡医師が、大阪大学で行ってきた好酸球研究で若手優秀発表賞(基礎部門)を受賞しました。

耳鼻咽喉・頭頸部外科 診療主任 小幡 翔

CAIカンファレンス2024にて発表を行いました！



令和6年11月9日(土)～10日(日)、同カンファレンスにおいて、当センター看護部副看護部長 関田看護師が「大阪アズマネットワークについて」という題目で発表を行いました。

看護部 副看護部長 関田 恵 (写真中央左)

ピックアップ

～ 当センターのスタッフを紹介します ～

はびきのパーソン

当センターでは、個性豊かなスタッフがそれぞれのセクションで明るく頑張っています！
少しでも当センターのスタッフに親しみを持っていただけると幸いです

副院長
アレルギー・リウマチ内科 医師
緒方 篤

Ogata Atsushi

冬になれば？ スキーです。



アレルギー・リウマチ内科の緒方です。

スキーを始めたのは大学時代ですので、かれこれ40年は経ちます。ちょうどバブル期、「私をスキーに連れてって」という映画が流行った頃です。流行に流され、なんとなく初めたスキーですが、その後、妻の家族がスキー好きであったことから、毎年のように行くようになりました。

子供もスキーをするようになって（させて）、今では年末年始に家族でスキーに行くのが恒例行事になっています。いつも行く信州白馬には常宿もでき、今や、第二の故郷です。

バブルのスキーブームが過ぎ、長野オリンピック、スノボのブームも過ぎて、静かになっていたスキー場も、最近は外国人が増えてまた賑わいが出てきています。皆様もスキーいかがでしょうか。体力も落ちてきていますが、まだまだ続けていきたいと思っています。

思い出の写真たち



↑昭和60年 学生時代



↓平成8年 留学先で



↑平成23年 子供と



↓令和5年 今でも家族で



↑そしてこれからも

事務局
事務局長

古井 孝彰

Fruji Takaaki

週末の過ごし方あれこれ

事務局長の古井と申します。

コロナ前までは、ホンダCBという1300ccのバイクで近畿全般を頻繁にツーリングしていました。コロナが流行って以降、乗る頻度が低くなったので、2年前にリードという125ccのスクーターにダウンサイジングし、たまに近場を走っています。

4年程前から続けているのが週末ウォーキングです。最初は自宅の周辺を、ルートを変えて歩いていましたが、段々と飽きてきます。そこで出発地まで電車で移動して好きなルートを歩き、到着地から電車で帰宅する方法にしました。これならルート設定が無尽蔵なので、奈良を中心に京阪神各地を歩いています。1回の歩行距離も最初は15km程度から始めましたが、次第に30km、40kmとエスカレートし、今までの最長は55kmです。

その他、年に数回ですがソロキャンプに行きます。テントとタープを張って、簡単なつまみで酒を飲みながら、ポヤッと焚火を眺めるだけですが、リフレッシュできます。



↑ HONDA LEAD125



↑ 週末ウォーキングの記録



↑ ソロキャンプの様子

思い出の写真たち



患者さんの想いを繋いでいく 入退院支援を目指して

患者総合支援センター内

入退院支援センター

入退院支援センターとは

当センターの入退院支援の始まりは遡ること平成21年で、地域医療連携室に看護師が配置され、退院調整業務を開始しました。令和2年には入退院支援センターを開設し、入院前支援もスタートしました。現在入退院支援室は、地域医療連携室・患者総合相談室の3部門で構成された患者総合支援センター内にあり、入院前支援と退院支援の2つの機能に分かれて患者さんへの支援を行っています。

患者さんへの取り組み

入院前支援では、入院が決定した患者さん・家族に面談を行い、安心して治療を受け、入院生活を過ごしていただけるよう、入院生活の説明や退院後の生活を見据えた情報収集を行い、入院病棟と情報共有しています。

退院支援では、入院前支援の情報や患者さんの病状や希望などを医師や病棟看護師と共有するとともに、患者さんの住み慣れた地域で自分らしい生活ができるよう支援しています。患者さんへは退院調整看護師と医療ソーシャルワーカーがペアで関わり、それぞれの専門性や強みを活かした介入を行っています。

また退院前カンファレンスにも力を入れ、患者さん・家族を中心に、在宅医療機関の先生方や訪問看護師さん、介護職の方など多職種の方々と退院後の患者さんの生活やケアの継続について検討しています。最近では、患者さんのACP（アドバンス・ケア・プランニング）が反映できるよう、『病院－在宅』双方向の連携が図れるような関わりも意識しています。

皆さまへメッセージ

医療のDX化や効率化が求められる時代ですが、私たちは地域医療機関の方々との『顔の見える関係』を大切にしながら、患者さんの思いを『繋いでいく入退院支援』を心がけ、さらに連携を深めていきたいと思っております。

最後に、患者総合支援センターには手話通訳や臨床心理士も在籍しております。患者さんたちが抱える様々な困りごとに対応できるよう準備をしておりますので、是非ご活用ください。



連携医療機関（登録医）のご紹介

医療法人 白岩内科医院

院長 白岩 俊彦 先生

〒582-0005 大阪府柏原市法善寺4-10-24

電話 072-971-1221

URL <http://shiraiwa-medical-clinic.or.jp>



当院では、糖尿病/脂質異常症/高血圧症/慢性腎臓病/循環器疾患/ウーゴビを用いた肥満症治療薬外来/心臓リハビリテーションなどの専門治療をおこなっています。慢性腎臓病に関しては、初期から透析療法に至るまでトータルでサポートします。各領域複数の専門医および糖尿病療養指導資格を有するスタッフや専門性の高いコメディカル総勢100名によるチーム医療を行います。患者様各々に最も適切と思われる治療法をご提案し、ご希望に添った治療法を選択いたします。お気軽にご相談ください。

診療時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00~12:00	○	○	○	/	○	○	/	/
14:00~15:00	○	○ 往診	/	/	○ 往診	/	/	/
15:00~18:00	○	○	○	/	○	/	/	/



タケダ歯科

院長 竹田 幸弘 先生
副院長 竹田 裕亮 先生

〒583-0882 大阪府羽曳野市高鷲9-496-2

電話 072-938-6480

URL <http://takeda-dentalclinic.com/>



当院は平成元年に羽曳野市高鷲にて開業して以来、地域に根差した診療を心掛けております。地域の皆様の全身の健康を歯の健康から支えていきたいと、患者様のお口の健康をサポートするために、ご自身の歯をできる限り残すための治療を行っています。これからも地域の皆様に愛される街の歯医者としての役割を果たしていきたいと思っておりますので、お口の事で困りごとがありましたら、お気軽にご相談ください。どうぞよろしくお願いいたします。

診療時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00~12:30	○	○	○	○	○	○	/	/
14:00~20:00	○	○	○	△	○	/	/	/

△ 木曜は14:00~17:00



◆登録医へのご登録のお願い◆

当センターは地域医療支援病院として、地域の医療機関と当センターが協力のもと相互の機能を有効に活用し、医療連携を深め広げることにより、地域全体として患者さんにとってより質の高い医療を提供していくことを目的に登録医制度を実施しています。ぜひ登録をお願いいたします。



◆ 登録医情報コーナーを設置しました

患者総合支援センター面談室の横に、登録医情報コーナーを設置いたしました。
当センターにご登録いただいている医療機関のリーフレットを作成し、情報コーナーに置いています。
かかりつけ医を探すなど、患者さんが手に取ってご覧いただけるようにしています。
当センターにお越しの際は、ぜひ一度お立ち寄りください。



◆ 受診に際してのお願い

- 呼吸器内科、肺腫瘍内科、アレルギー・リウマチ内科（松野医師のみ）、消化器内科は、**完全予約制**となっております。事前のご予約なしでの当日受診はできませんので、ご了承くださいませようお願いいたします。
- できるだけ、事前に診察・検査の予約をお取りください。
紹介状があっても予約がない場合は、待ち時間が長くなることや当日の受診ができない場合もあります。
- 消化器内科・心臓血管外科では常勤医不在のため、手術等の入院加療が必要となる場合は、他院を紹介させていただく場合がございます。ご理解のほどよろしくお願いいたします。

地域医療支援病院として紹介・逆紹介をさらに推進してまいります

私達は、最新の医療水準で、最適な医療サービスを、思いやりの心をこめて提供します。



地方独立行政法人大阪府立病院機構

大阪はびきの医療センター

〒583-8588 大阪府羽曳野市はびきの3-7-1

TEL：072-957-2121(代)

<院内診療科のご案内>（令和6年12月現在）

呼吸器内科、肺腫瘍内科、感染症内科、アレルギー・リウマチ内科、循環器内科
消化器内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、呼吸器外科、消化器外科、心臓血管外科
乳腺外科、産婦人科、小児科、皮膚科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、泌尿器科、整形外科、眼科
歯科口腔外科、麻酔科(高内 裕司)、集中治療科、救急診療科、画像診断科、放射線治療科
臨床検査科、リハビリテーション科、緩和ケア科、外来化学療法科、病理診断科

ホームページ



Facebook



Instagram



Official LINE

